

「一湾を 囲むかけろ  
う 赤瓦」

自作の句です。

初めて石見路を訪れた人は、私たちが子どものころから見慣れていた瓦屋根の風景に、新鮮な感

世界遺産の街・イタリ  
アのシエナ。赤れんがの  
建物で有名ですが、石見  
の赤瓦もこれに匹敵する  
のではないのでしょうか。

山陰の小京都津和野、津  
和野町日原、浜田市金城

# いわみ 談話室



動を覚えるようです。

町、邑南町の矢上、羽須  
美地区、江津市の本町通

の山里、たわわに実る柿  
りや波子町、大田市の大  
森町や温泉津町など、赤  
瓦の家並みは、よく似合い  
ます。素晴らしい田舎は

信州や東北にもたくさん  
ありますが、赤瓦の連な  
る風景はこの石見地方だ  
けです。

## 佐和 洋亮さん



まがありません。

さて、この赤瓦(石州  
瓦)。愛知の三州瓦や淡  
路瓦と並ぶ日本3大瓦の  
一つ。地元の原土に出雲  
の来待石を釉薬として使  
って独自の赤い色が出ま

ます。

す。

高温で焼くため強度に  
優れており、不況や建築  
方式の変化などにもめげ  
ず、石州瓦工業組合の石

瓦の8社は、製瓦販売に  
力を入れています。

2007年には、特許  
庁から地域団体商標登録  
され全国展開に追い風。

地元でも、学校などの公  
共建物に石州瓦が使わ  
れる。益田市のグラントワ  
には屋根や壁に28万枚も  
の石州瓦が。

田植えが終わった水田には赤瓦が映える(益田  
市益田町、筆者撮影)



そして、この組合のほ  
か、益田、浜田、江津、  
大田の各市は、石州瓦利  
用促進のため、新築やリ  
フォームの石州瓦使用に  
補助金を出しています。  
石州産瓦の販売シェア  
は、北海道から沖縄まで  
の県外が約85%。最近  
は、ロシアにも輸出。郷土  
の誇るべき伝統文化と産  
業です。

10歳のころ上京したま  
ま津和野の地に帰ること  
のなかった森岡外も、石  
見人森太朗としてこの  
世を去るとき、赤瓦の原  
風景を思い浮かべたに違  
いありません。

# 誇るべき赤瓦の町並み

※参照＝石州瓦工業組  
合ホームページ「屋根の  
学校」ほか  
(浜田市紺屋町在住)

# 石見

## 取材編

■西部本社

■益田総局

■大田支局

■川本支局

■江津支局

TEL:0854-22-0100 FAX:0854-22-0100  
TEL:0854-22-0100 FAX:0854-22-0100  
TEL:0854-22-0100 FAX:0854-22-0100  
TEL:0854-22-0100 FAX:0854-22-0100  
TEL:0854-22-0100 FAX:0854-22-0100